

# ふるさと Something NEWS

## 第29回

# 「上毛かるた」は、群馬県の読み札

一般社団法人 光楓座  
一般社団法人 e f c o . j p  
代表理事 佐藤建吉

### ▼「鶴」―茨木のり子

鶴が／ヒマラヤを越える／たった数日間だけの／上昇気流を捉え／巻きあがり巻きあがりして／九千メートルに近い巖壁たるヒマラヤ山系を／越える／カウカウと鳴きかわしながら／どうやってリ―ダーを決めるのだろうか／どうやって見事な隊列を組むのだろうか／

### ▼群馬県は「鶴」のカタチ

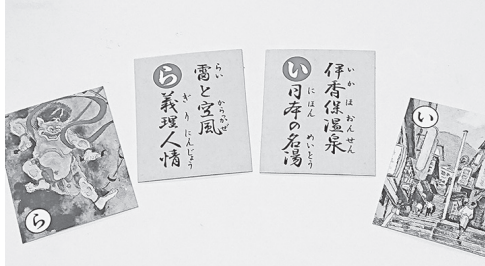
本号で取り上げる「上毛かるた」のいろいろは、『つ』の読み札には、『つ』

### ▼「上毛かるた」の由来

「上毛かるた」は、戦後の昭和22年(1947年)の暮れに発行された。当時GHQの占領下で、日本の伝統文化や日本の自慢などは、御法度の時代であった。群馬県前橋市出身の教育者・浦野匡彦氏(1910生〜1986没)の貢献により、日本民族の誇りと郷土愛を群馬県の児童の心呼び起こし、品格ある道義国家の再興への道を作ろうとした機運が、「上毛かるた」の製作意図であった。GHQに気を使いながらも、群馬の歴史、文化を、地理や人物に絡めて、日の丸「日本」を子どもたち向けとして文句に盛り込んだのであった。読み札の「いろは…」の文字は、赤い日の丸にはめこまれている。

### ▼「上毛かるた」の文句

子供向けであり、「を、あ、あ、ん」を除いた44文字が、かるたの読み札となっているが、その文句を以下に掲げよう。『い』伊香保温泉 日本林山／『て』天下の義人の名湯／『ろ』老農 船津傳次平／『は』花山公園つじの名所／『に』日本で最初の富岡製糸／『ほ』誇る文豪田山花袋／『へ』平和の使徒新島襄／『と』利根は坂東一の川／『ち』力あわせる二百万／『り』理想の電化に電源群馬／『ぬ』沼田城下の塩原太助／『る』ループで名高い清水トンネル／『わ』和算の大家関孝和／『か』関東と信越つなぐ高崎市／『よ』世のちり洗う四万温泉／『た』滝は吹割片品深谷／『れ』歴史に名高い新田義貞／『そ』そろいの仕度で八木節音頭／『つ』つる舞う形の群馬県／『ね』ねぎとこんやく下仁田名産／『な』中仙道しのぶ安中杉並木／『ら』雷と空風義理人情／『む』昔を語る多胡の古碑／『う』確水峠の関所跡／『の』登る榛名のキャンプ村／『お』太田金山子育吾龍／『く』草津よいと薬の温泉／『や』耶馬溪しのく吾妻峡／『ま』繭と生糸は日本一／『げ』県都前橋生糸の市／『ぶ』分福茶釜の茂林寺／『こ』心の燈台内村鑑三／『え』縁起たるまの少林山／『て』天下の義人の名湯／『ろ』老農 船



上毛かるたの箱と札『い』と『ら』(左)とその拡大(右)



連載・イベント

だ明治大正時代の大文学者Rやモットーの定着にも者の一人。自然主義作家の第一人者、館林に生れ若いころ上京して辛苦をなめつつ独学力行し、従軍記者や雑誌編集者となり、自然主義文学を唱え、文学界に貢献した。漢詩・随筆短歌もよくした。没年昭和5年、60歳。とあり、詳しい記述で、これは国語の教材であった。

### ▼かるたの効用

「上毛かるた」は、群馬県の特徴を、子供の時から記憶に残し、ふるさとに誇りや愛着をつくる。群馬といえは、空っぽの群馬ではない。筆者が年頭所感で書いた「地方改革(ふるさと復活)で地方復権」にも一役を為すだろう。

なにかへの合図でもあるような／純白のハンカチ打ち振るような／清冽な羽ばたき／羽ばたいて／

わたしのなかにわずかに残る／澄んだものが／はげしく反応して／さざなみ立つ／今も／目をつむれば／まなかいを飛ぶ／アネハツルの無垢ないのちの／無数のきらめき

39度03分39秒、北緯36度23分28秒。面積636